

花いっぱい，笑顔いっぱい，夢いっぱい

～学校を変えた学級活動～

福岡県筑上郡椎田町立椎田中学校

やまもと　つかさ

山本　司

【実践の内容】

「この学校には色がない，花がない…。」10年前，担任をしていた生徒が書いた手紙の一節である。校舎自体が老朽化していたこともあるが，無味乾燥，殺伐とした学校生活をも言い表したものだのように思う。当時は，毎日のように窓ガラスが割られるなど，問題行動が絶えなかった。いびつな上下関係がはびこり，一年生は先輩が怖くてトイレに行くことさえできない状態であった。

現在，生徒には笑顔が戻り，校庭には色とりどりの花が咲いている。文字通り「花いっぱい，笑顔いっぱい，夢いっぱい」の学校へと再生を遂げた。この再生へと導いた家庭や地域，教師や生徒が一体となった取り組みを紹介する。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

学校の現状をふまえ，生徒が安心して生活できる環境にするためには何が必要であるかを示し，改善に向けての意思確認を図るとともに，生徒にも取り組みに参画させる事により，愛校心を育成することをめざした。

2 研究の仮説

学級での取り組みが，生徒の悩みや学級・学校の課題に合ったものであり，望ましい人間関係づくりに有効であれば，学校生活が生徒にとってより豊かなものとなるであろう。

3 研究の具体的方策と実践

実践1．学級懇談会と花いっぱい運動

今の学校の現状を理解してもらえない

と考え，年間を通して学級懇談会を持ち続けた。月に一度，保護者との話し合いを重ねる中で，生徒と保護者と教師で，「花いっぱいの学校に入学し，花いっぱいの学校を卒業する」という取り組みを行うことになった。花を植え始めた当初「そんな事しても，どうせ上級生に抜かれるよ」と誰もが思っていた。だが，そんなことは1度もなかった。

1つの学級から始まった取り組みが，全校へと広がり，10年経った今も継続している。

実践2．笑って無くせ「ぺこぺこ挨拶」

いびつな上下関係，その象徴だったのが「ぺこぺこ挨拶」である。声を出さずに，首をただ上下にぺこぺこ動かすのである。文化祭では，学級全体でそれをなくそうとする劇に取り組んだ。ストーリーは，「北の国から」を使うことにした。劇のポイントは，椎田中学校に転校してきた純が先輩たちから「ぺこぺこ挨拶」を強要されるが拒否をして，それをクラスのみinnで支える場面である。上級生に自分たちがしていることを客観的に見せて，おかしさに気づかせたかった。笑いの中で幕は閉じた。これに多くの生徒が勇気づけられ，「ぺこぺこ挨拶」をなくそうという動きが全校に広がり，やがて解消された。

4 研究のまとめと今後の課題

学校生活の中では，日々さまざまなことが起こる。その問題点を1つ1つ解決していくことが，新しい教育活動を創造していく原点になると信じて実践を積み重ねてきた。成功をいつも頭の中にイメージしながら，あきらめずに，日々新たな気持ちで生徒たちと楽しく過ごしていければと思っている。